

2014年7月1日

関係各位

三重大学教養教育機構長
井口靖
「公印省略」

教員の公募について（依頼）

このたび、三重大学教養教育機構では、下記のとおり専任教員（年俸制）を公募しますので、関係者等にご周知いただきますようお願い申し上げます。

- 職名： 教授，准教授または講師
- 雇用期間： 2015年4月1日～2020年3月31日（5年）
（状況により再任する場合があります。ただし、本学規定により教員の定年は65歳となっています。）
- 人員： 1名
- 教育分野： 三重大学教養教育 教養基盤科目 教養ワークショップ（詳細は下記参照）
- 給与： 国立大学法人三重大学年俸制適用職員給与規程による年俸制とします。年俸額は、経験等を勘案して決定します。
- 応募資格： (1) 大学院修士課程（博士課程の前期課程を含む。）修了者，または学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者で，採用予定日において2年以上の教育または研究歴を有する者，またはこれと同等以上と認められる者。ただし，研究歴には大学院（博士課程の後期課程）の在学期間を含めることができる。
(2) 三重大学教養教育 教養基盤科目 教養ワークショップ（セミナー；後期6コマ程度）および教養統合科目のいずれか（講義；前期6コマ程度）を担当できる者
(3) 教養ワークショップ（全学必修）全体の企画・運営等を行える者
- 応募書類： (1) 履歴書1通
(2) 教育・研究業績一覧1通（査読付き論文は明示すること）
(3) 教育・研究業績5点以内
(4) シラバス（所定様式：教養統合科目のみ）
(5) これまでの教養教育に関する経験と教養教育に関して自らの考えを述べたもの（A41枚程度）
(6) 書評（これまで読んだ論説文（新書程度）から1冊；A41枚程度）
- 応募締切： 2014年8月29日（金）17時必着
- 着任時期： 2015年4月1日（水）
- 選考方法： 書類選考および面接・模擬授業（書類選考合格者のみ，面接・模擬授業の日時・場所などを通知。本学までの旅費は支給します。）
- 書類提出先： 封筒に「教養教育機構専任教員（教養ワークショップ）応募書類在中」と朱書きの上，下記宛てに書留郵便で送付してください。
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
三重大学教養教育機構長 井口靖
- 問合せ先： 三重大学学務部教養教育機構チーム総務担当：野呂，伊藤
電話：059-231-9820 Eメール：kyoyo@ab.mie-u.ac.jp
- その他： (1) 提出書類は原則として返却しません。博士論文等返却が必要なものはその旨お伝えください。
(2) 勤務時間等は本学規定によります。
(3) 提出書類は選考以外の目的には使用せず，返却しない書類は選考後適正に廃棄します。

【新しい教養教育について】

三重大学では 2015 年度から新しい教養教育が始まります。全学の学生が履修する共通カリキュラムは次の 2 つの理念に基づきます。

「自律的・能動的学修力の育成」

単に知識だけを持っていても常に変動する社会に対応することはできません。自律的・能動的に学ぶ習慣を身につけ、それを基盤に主体的に問題を発見し解を見いだしていく力が必要です。これにより不測の事態にも対応できる社会人の養成を目指します。

「グローバル化に対応できる人財の育成」

国際社会で活躍できる人財，グローバルな視点で地域を活性化できる人財の育成を目指します。ただし，真にグローバルな人財とは，外国語ができるだけでなく，世界的視野で物事を考えるとともに，多様な個別文化も尊重し，理解できる眼を持つ人財です。それによって自らの社会や文化も相対化することができ，地域に根ざすグローバルな人財となりえるからです。

カリキュラムは教養基盤科目と教養統合科目から構成されますが，教養ワークショップは教養基盤科目のアクティブ・ラーニングに位置付けられ，自律的・能動的学修力の育成をめざし，学生が自分で書籍を読んで書評を書き，お互いに批評し合う授業を行います。セミナー形式の全学必修の授業です。教養教育機構の専任教員，特任教員が担当しますが，この全体の運営とともに，FD 研修等で指導的な役割を果たすことが求められます。

教養統合科目は，地域理解・日本理解，国際理解・現代社会理解，現代科学理解の 3 領域に分かれています。これらのいずれかの領域の中で講義できることが必要です。

・地域理解・日本理解

地域に根ざし国際社会で活躍できる人材の育成という大学の目標の実現のため，地域を理解し，それを地域において活用することを目指す科目，それに基づき，バランスのとれた国際人となるよう日本を理解する科目を履修します。これらを国際理解，異文化理解のための科目と併せて履修することにより，自らの文化，視点を相対化することが可能となります。

・国際理解・現代社会理解

今後の複雑な国際社会に対応できる人財を育成するため，英語力増強，異文化理解に加えて，東西の歴史や思想，政治・経済・社会のしくみ，現代の国際情勢などを学ぶ科目を国際理解・現代社会理解として履修します。

・現代科学理解

国際的に活躍するため，あるいは，国際社会を理解するために必要な情報科学，環境とエネルギー，生命科学などさまざまな科学的問題の基本的知識とそれらについて合理的・科学的に考える力を育成します。

三重大学の新しい教養教育の理念等については次をご参照ください。

<http://www.mie-u.ac.jp/department/la-ars/>

三重大学教養教育機構シラバス

授業科目または授業テーマ	
単位数	2単位
教養統合科目領域	<input type="checkbox"/> 地域理解・日本理解 <input type="checkbox"/> 国際理解・現代社会理解 <input type="checkbox"/> 現代科学理解
担当教員名	
授業の概要	
学習の目的 (授業が終了した時点で、最低限の到達目標を超えて、学生が「このような知識を得る」、「このようなことができるようになる」ことを明確にイメージできるように)	
学習の到達目標 (学習者が合格する基準(=60点、「C評定」)を「このような知識を得る」、「このようなことができるようになる」ことを明確にイメージできるように)	
教科書	
参考書	
成績評価方法と基準 (記入例: 小テスト〇%、レポート〇%、期末試験〇%、計 100%。(合計が 60%以上で合格)	
授業改善への工夫 (授業で工夫しようと思っていること)	

学習内容（15回に分けて記入）	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 （試験）
その他	